



異所性尿管

■ 病気の概要

本来は膀胱につながっているはずの尿管が、尿道・膣などにつながってしまう先天性疾患です。生まれながらの構造異常で、若い雌犬に多く見られます。「常に少量の尿が漏れる（滴下性尿失禁）」が特徴的な症状です。専門性の高い手術が必要なため、専門施設へのご紹介が基本となります。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・生まれた頃からずっとおもらしが続く（特に若いメス犬）
- ・トイレとは関係なく常に少量の尿が漏れる（滴下性尿失禁）
- ・会陰部の皮膚炎・かぶれ
- ・頻尿・排尿困難
- ・尿路感染症の繰り返し

■ どんな検査をするの？

- ・尿検査・培養（感染の確認）
- ・腹部超音波検査
- ・CT 検査・尿路造影（専門施設をご紹介します）
- ・膀胱鏡検査

■ 治療方法

内科治療

- ・尿路感染症の治療（抗菌薬）
- ・尿失禁治療薬（フェニルプロパノールアミン）
- ・術前の感染コントロール

外科治療

- ・尿管膀胱移植術（専門施設へのご紹介）

■ ご家庭で気をつけること

- ・尿もれの様子を確認する
- ・会陰部の清潔を保つ
- ・感染予防

■ よくある質問

Q. 手術はどこで受けられますか？

A. 専門性の高い手術のため、専門施設へのご紹介が基本となります。まず当院で評価した上でご案内します。

Q. 手術すれば尿失禁は治りますか？

A. 多くの症例で改善します。尿道括約筋の機能不全を合併している場合は追加の薬物療法が必要なことがあります。

Q. いつ手術するのがいいですか？

A. 尿失禁による皮膚炎・感染が問題になる前に手術することをお勧めします。

■ なつ動物病院での診療について

診断と初期評価を行い、専門施設へのご紹介をスムーズにご案内します。「子犬の頃からずっとおもらしが続く」という雌犬はご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください